発達勉強会　報告

歴史を踏まえた発達障害の基礎的理解

R4.4.16

◇ASD の歴史

・**レオ・カナー**（1943）**「早期幼児自閉症」**
人との意思疎通が殆どみられず、こだわり、常同行動、オウム返しなどの言語的特徴、優れた記憶力。

・**ハンス・アスペルガー**（1944）**「小児期の自閉的精神病質」**
共感能力の欠如、一方的な会話、特定の興味への没頭、ぎこちない動作を示す。

・**マイケル・ラター**（1968）**「脳障害説」**
自閉症は先天性、脳の器質的障害。記憶力に比べ、言語を抽象的、象徴的に用いることが不得手。

・**ローナ・ウイング**（1979）**「３つ組の障害」**
社会的相互作用の障害、社会的コミュニケーションの障害、社会的イマジネーションの障害

・**ローナ・ウイング**（1981）**「アスペルガー症候群」**
言語発達の遅れは伴わないが、自閉症と同じ特徴を持ち、社会で困難を抱えている子どもの存在。

・**バロン・コーエン、ウタ・フリス**（1985）**「心の理論障害」**
自らを他人に置き換えて相手の心を推量したり予測したりすることが難しい。

・**ラマ・チャンドラン**（2007）**「ミラーニューロンシステムの低下」**
他者を見て、脳内で同じ体験ができない、他者の行為や意図、感情を直感的に理解できない。

・過去には、生得的なものではなく、環境因によるものという理解が一般的であった。

・DSM-IV-TR（1994）、ICD-10（1990）では「広汎性発達障害」を上位概念とし、「自閉性障害」「アスペルガー障害」など、似たような病態を示すグループを下位分類した。

・**DSM-5（2013）、ICD-11（2018）では「自閉スペクトラム症」とまとめて表現されるようになった。**

◇ADHD の歴史

1902：Still、攻撃的な子ども 43 例について報告**「道徳的統制の欠如と抑制意思の欠陥」**

1917：Tredgold、**道徳的抑制の欠如は「脳障害」に起因**する。

1947：Strauss：周産期、出産時の**脳損傷児→多動性、衝動性などとの関連。**

1959：「微細脳損傷」→**「微細脳機能障害」**

1968：DSM-Ⅱ**「子どもの多動性反応」**　　1969：**「過動症候群」**

1970 年代：**不注意症状**への注目

2000：DSM-IV-TR**「不注意型」「多動・衝動型」「混合型」**

2013：DSM-5 、ADHD と **ASD との併存**が認められた。

◇LD の歴史

1877：ドイツで神経内科医が視覚、**知的能力に問題がないのに読みの問題を抱える**症例を「語盲」と表現。

1905：アメリカで眼科医が小児期における**読書困難**について報告。

1962：アメリカで読み書きや計算の困難に対して「**LD**」を使用。

1988：全米 LD 合同委員会の定義**「聞く、話す、読む、書く、計算する能力の獲得と使用に著しい困難」**

1990 年代：日本、文部省で学習障害について検討。

2013：DSM-5、**SLD(限局性学習症)**定義：学習の困難に対して介入が提供されているが症状が 6 ヵ月継続。

日本では、21 世紀に入って LD、ADHD、ASD などの発達障害児にも特別支援教育の提供が本格化した。